

1 学校教育目標	
教育目標	1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。 2 感謝の気持ちを持ち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。 3 自ら思考し、判断し、責任ある行動のとれる主体的能力、態度を養う。 4 強い使命感と倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。
育てたい生徒像	社会人として自発的・自律的に行動できる 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術 2 感謝の気持ちとボランティア精神 3 高い規範意識と正しい判断力 4 現状に満足せず主体的に学び続ける姿勢



校訓

勤労愛好 報恩感謝 自発自律

ひとづくり&ものづくり 100年へ向けて
～新たな百年の礎づくり～

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
【学習指導】	昨年度の授業アンケートでは94.7%の生徒が「授業がよくわかる」と回答した。本年度は、学期に2回、PDCAサイクルを回して、生徒に何が身に付いたかを確認しながら評価を行う。また、必要があれば授業改善に取り組む。さらに、引き続き、互見授業等を行い、教員の指導力向上を図っていく。
【生徒指導】	昨年度、全生徒の出席率が94%であった。本年度の目標は98%である。生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を行い、校則の遵守や時間厳守の意識を高めるよう粘り強く指導する。また、月1回の情報交換会等で情報を共有して全教員の共通理解のもとで組織的に指導にあたる。
【進路指導】	昨年度は12年連続進路実現100%を達成、本年度も継続して進路実現100%に取り組む。また、1・2年生については進路先の早期決定が図れるように生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を継続的に行う。
【特別活動】	昨年度はコロナ禍で行事を工夫しながら実施した。本年度も従来の行事を大切にしながら、コロナ禍でもできる行事を企画・運営して生徒の自主性を育成していきたい。
【工業科】	昨年度はマイスター事業等を活用して、生徒は機械の専門に関する技術を習得した。本年度はさらにICTの活用能力の向上を図っていく。
【業務改善】	昨年度は時間外労働時間削減と校務の見直し等について取り組み、十分な成果があった。本年度も引き続き、時間外業務時間の削減、校務分掌の見直しと業務改善に取り組む。また、ジョブローテーションが可能な体制づくりに取り組んでいく。
【地域連携】	昨年度はコロナ禍でもありボランティア活動等を断られることがあった。本年度については感染防止対策をしっかり行い、関係機関としっかり協議しながら、一つでも多く実施できるように創意工夫して取り組んでいく。また、ホームページを活用して情報発信に努めていく。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践	2 規律ある安心・安全な学校づくりと組織的な危機管理
3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導	4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信

(1)【学習指導】	(4)【校務運営等】
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力や技術の定着 互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善 主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> 教員減に対応した勤務体制の見直し 迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化 コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化 本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的発信
(2)【生徒指導等】	
<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成 交通事故0の継続 部活動や特別活動の活性化 	
(3)【進路指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得の促進 早い時期からの進路意識の醸成 就職サポーター等と連携した積極的な情報収集 生徒・保護者への確実な情報提供 最後まで粘り強いサポートの実践 	

◎本年度のチャレンジ目標

① 進路実現100%

② 全校生徒で年間98%以上の出席率

4 自己評価					5 学校運営協議会委員評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立	考査毎の生徒の「振り返り」を教科担当が必要に応じて支援する。さらに学期に1回、授業評価を実施し、評価結果の分析に基づいて授業改善を行い、生徒の基礎学力の向上を図る。	授業評価項目の中の授業の内容が「よく分かる」、「分かる」が合わせて 4: 85%以上 3: 75%以上 2: 65%以上 1: 65%未満	4	アンケートの結果から、授業内容について、概ね「(よく)分かる」の評価が前期・後期ともに100%であった。また、「分かりやすい説明・工夫」についても、概ね「(よく)分かる」の評価が前期・後期ともに100%であった。この両方にこの評価であった理由としては、ICT機器を活用した授業実践ができたこと。さらに「振り返り」を支援できたことがこの評価につながったと考える。	評価からも分かるように生徒が満足している様子が見える。 ・出席率がよく学校への関心の高さを表れている。 ・全日制に比べ学習に取り組む熱量の多さに感動しています。「勉強したい」「頑張りたい」「学校へ行きたい」が伝わります。 ・基礎学力の向上を図るためICTの活用は今後期待される方向だと思う。 ・よくわかるの評価100%は良い。 ・「よくわかる」の評価が100%は素晴らしいと思います。授業参観はもう少しで目標達成のため頑張ってください。	4
		教員相互による授業参観を活用し、授業力向上に取り組む。	教員一人あたりの授業参観回数が 4: 5回以上 3: 4回以上 2: 3回以上 1: 3回未満	3	ICT機器を活用した授業実践を推進したことで、教員間での教え合いや授業参観が活発となった。授業参観については、前期26回、後期は16回、研究授業1回、累計43回、教員一人当たり平均4.3回実施した。		
		学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。	出席率が98%を超える生徒が 4: 10名以上 3: 8名以上 2: 6名以上 1: 4名以上	3	4月から1月末において、出席率が98%を超える生徒は9名/18名であった。内訳は1年生2名、2年生3名、3年生3名、4年生1名であり、皆勤の生徒は4名である。		
生徒指導	基本的生活習慣の育成	頭髪、服装指導を徹底する。	頭髪、服装指導の再指導を要する生徒が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 30%未満 1: 30%以上	2	再指導を要する生徒は25%程度であった。再指導に従わなかった生徒はいなかった。生徒は概ねルールを守っているが、頭髪や服装については一部に継続的な指導が必要な生徒がいた。今後も粘り強く対応したい。	・生徒が自主的に生活習慣を守ることができるような取組の工夫に期待したい。 ・生徒の成長を目標によく支援されていると思います。 ・社会とのつながりを持つ生徒さんが多いので自覚しながら生活できていると感じます。 ・気が緩まない程度に指導すれば大丈夫そうです。 ・継続して指導をお願いしたい。 ・全日制と定時制の制服が同じなので、頭髪・服装にはきちんと指導を行ってほしいと思います。 ・事故が1件発生したことは残念である。	4
		時間厳守の意識をもたせる。	授業開始時刻を守れなかった生徒が年間 4: 4名以下であった。 3: 7名以下であった。 2: 10名以下であった。 1: 多数であった。	3	授業開始時刻を守れなかった生徒が5名いた。特定の生徒が遅刻を繰り返す傾向が見られた。学級担任だけでなく、教職員全員で対応することである程度の防止につながっていると考えられる。		
		いじめや問題行動等の未然防止	生徒一人ひとりの変化に気を配り、いじめや問題行動の早期発見、未然防止に努めるために、アンケートや個人面談を積極的に行う。	4: 交換会を10回以上実施し、生徒情報及び最新知見の共有ができた。 3: 交換会を10回程度実施し、生徒情報を共有することができた。 2: 交換会実施は10回に満たなかったが、生徒情報を共有することができた。 1: 実施できなかった。	4		
	交通安全0に向けての取組	定期的実施する安全教室と合わせて、月1回の交通安全日を設定して登校時に注意喚起する。	4: 年間を通してすべての月で実施した。 3: 年間10回以上実施した。 2: 年間8回以上実施した。 1: 年間8回未満の実施となった。	3	年間10回の交通安全指導を行った。学校周辺において生徒に注意喚起を行うことができた。 年間で1件の交通事故が発生した。大きなけがはなかったが、事故後の対応についてはさらにきめ細かい指導が必要である。		

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
進路指導	生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択の実現	LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。	全学年の生徒において進路希望「未定」が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 40%未満 1: 40%以上	3	近年、上級学年でも学校を休みがち、アルバイトを継続できないといった目的意識が見えない生徒が増えている。もちろん、見通しが甘い者、悲観的過ぎる者もあり、一律に情報提供するだけでは意味がない。「進路の話」というだけで拒否反応を示す生徒もいるが、タイミングを見計らいつつ個別指導を進めていきたい。	・今後も生徒一人一人に寄り添った対応をお願いします。 ・是非、個人指導で気持ちをふるいたたせてあげて欲しいです。 ・実業高校にとっては就職への意識づけが重要となる。より一層の充実を期待する。 ・進路指導をきめこまかく行っている様子うかがえる。 ・自主性のバランスを検討してください。	3
		卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路が実現できるよう支援する。	卒業学年生徒において 4: 全員の進路が12月末までに決定 3: 全員の進路が2月末までに決定 2: 全員の進路が3月末までに決定 1: 3月末までに進路先を決定できない者がいた	2	新型コロナウイルスの影響が懸念されたが、求人数も一昨年レベルに戻り、スケジュール通りの指導に乗れた生徒は早期に内定を得ることができた。しかし、出席時数不足から推薦基準に達しなかった2名の生徒については、進路先決定が2月以降になった。		
特別活動	学校行事や生徒会活動を通して活力ある学校づくり	学校行事を通して、生徒の自主性を育成する。	4: 95%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3: 93%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2: 90%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1: 参加した生徒は87%に満たず、取組は停滞していた。	3	参加率は94.4%で、最高目標にはとどかなかった。興味・関心がわかない、あるいは苦手意識があるといった行事や活動に対して、協力しようとか実践して何かを得ようとする気持ちを持っていない生徒が複数いる。 新入生歓迎行事や後期クラスマッチは全員参加で盛り上がった。	・参加率が高く良いと思う。学校行事はぜひ全員参加してほしい。 ・コロナ禍でもできる事に取り組めたことは良かったですね。 ・定時制では仲間意識の高揚が教育全般へ好影響となる。 ・学校行事を生徒が主体的に	3
工業科	産業人として必要な技能・技術の習得	熟練技能者などの外部人材活用により、生徒に対して高度な技能・技術の指導を実施する。	山口マイスター活用事業による指導を 4: 年間3回以上実施した。 3: 年間2回実施した。 2: 年間1回実施した。 1: 実施できなかった。	3	昨年度は年間を通して4回を実施できた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、職能協会より実施回数を半減させるとの連絡を受けた。残念ながら目標とした3回以上を達成できなかった。	・コロナ禍で残念です。 ・オンライン研修など意欲的であればいい。 ・成果が上がっているのでも継続をお願いしたい。 ・コロナ禍においてできることに取り組んでいると考える。	4
	技術の習得と技能の継承による指導力向上	工業専門科目やICTに関する研修会へ積極的に参加する。	教員一人当たり、研修に 4: 年間4回以上参加した。 3: 年間3回参加した。 2: 年間2回参加した。 1: 年間2回未満であった。	4	校内でのICT活用研修によって一人当たり平均4回以上の研修参加を実現できた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、積極的に外部への研修参加ができなかったが、オンラインでの外部研修を活用する先生もおられた。		
業務改善	業務改善と勤務体制の改善による業務の効率化	教務、生徒指導、進路指導、特別活動の各分掌における業務改善及び組織の再編により業務の効率化を図る。	業務改善と組織再編による業務の効率化を 4: すべての分掌において実施できた。 3: 3つの分掌において実施できた。 2: 2つの分掌において実施できた。 1: 1つの分掌も実施できなかった。	4	教務部では観点別評価に対応した教務内規の見直し等を行った。進路指導部では、コロナ禍における新しい工場見学を企画・実施した。総務部では、コロナ禍における行事を実施するための判断基準を作成し、運用した。生徒指導部では校則について検討した。	・コロナ禍で創意工夫がされていてすばらしい。 ・教員という職業柄難しい事もあるがライフワークバランスを大切にしたい。 ・業務改善が進んでおり評価できる。 ・特に問題点はないと考える。	4
	迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化	分掌間や分掌内の情報共有と緊密な連携を図るため、連絡会後の時間(ミーティングタイム)を設定して必要に応じて取り組む。	迅速な情報共有と緊密な連携が 4: 約90%以上図れた。 3: 約80%以上図れた。 2: 約70%以上図れた。 1: 70%未満	4	連絡会後の時間を活用して、生徒情報交換会や観点別評価の検討、進路指導部会等を実施した。この時間を活用したことで、全員の先生方から情報共有や緊密な連携が図れたと回答があった。		
	時間外業務時間の削減	定時退勤を呼びかけ意識改革を図る。また、必要に応じて日々の適切な業務の配分を行い、勤務時間内に全員が退勤できるように配慮する。	業務の円滑な遂行とジョブ・ローテーションを意識した業務改善が 4: 約90%以上図れた。 3: 約80%以上図れた。 2: 約70%以上図れた。 1: 70%未満	4	校務分掌の副主任を設置して、主任との連携・協力による業務の円滑な遂行とジョブ・ローテーションを意識した業務改善が図れたと答えた先生方は87.5%であった。		
地域連携	地域に対する教育活動の周知	各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌等の連携及びホームページにより積極的に地域へ発信する。	各種掲載回数及びホームページの更新合計が 4: 20回以上 3: 15回以上 2: 13回以上 1: 13回未満	3	コロナ禍で延期、中止した行事や規模を縮小して取り組んだ行事等もあったが、新聞・広報誌等の掲載回数7回、ホームページ更新回数8回であった。	・ホームページの更新はすばらしい。 ・コロナ禍の中ご苦労がうかがえる。 ・コロナ禍でもできることに取り組んでいる様子うかがえる。	4
	近隣中学校と本校定時制との連携強化	近隣中学校の授業公開への参観や学校説明のための中学校訪問、本校の授業開放の案内を行い、相互理解を深める。	中学校への訪問と本校授業公開の合計日数が 4: 20日以上 3: 18日以上 2: 15日以上 1: 15日未満	4	定時制では前期と後期に分けて授業公開を行っている。前期についてはコロナ禍のため中止、後期は5日間実施した。その他の取組として学校説明会1回、中学校の訪問日は25日間実施できた。		
	学校と家庭、地域社会との連携の強化	デュアル研修、地域の伝統産業の学習、工場見学、老人ホームでの活動等、地域と連携した教育活動に取り組む。	目的を理解し、「意欲的に取り組めた」と答えた生徒が 4: 85%以上 3: 75%～85%未満 2: 65%～75%未満 1: 65%未満	4	コロナ禍のため実施できなかった教育活動もあったが、生徒アンケートの結果から全員の生徒が目的を理解して「意欲的に教育活動に取り組めた」と答えた。		
ICTの活性化	ICT機器の積極的活用による活用能力の向上	全教員がICT機器(スタディサプリ、宿題、プレゼンテーション等)を積極的に活用して授業力の向上に取り組む。	ICT機器を活用した授業が「できる」と答えた教員が 4: 100%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	4	ICT活性化委員会を開いて、ICT機器を活用した授業を促進してきた。ICT活用能力に個人差はあるものの、全員がICT機器を活用した授業ができるようになった。	・ICT全員活用はすばらしい。	4

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【各委員の方からのコメント】

「生徒一人一人に寄り添った取組をされていることが分かった」、「今後も生徒のために意欲的に対応、指導をお願いします」、「地域行事、学校行事などがコロナ禍で難しかったと思いますが手厚く、きめ細かい生徒への対応をされていると思います」、「コロナ禍にあっても生徒さんとの交流の場がなかったことはとても残念でした」、「学習指導、生徒指導、進路指導、業務改善、地域連携すべてに関して教員の皆さんが連携しながら取り組まれているからこそ良い結果が出ていると思います」、「コロナ禍の状況下においてオンラインも活用し、継続してきめ細かく一人ひとりを指導している様子うかがえる」、「学校運営協議員ではあるが直接来校する機会が少ないので学校評価が正直難しい」さまざまな事情を抱える学生さんに対して細やかな対応を実施されている」等のコメントをいただきました。定時制の教育に対して深くご理解いただきたい、そして、温かく見守り、ご支援いただきました。

【成果】

学習指導、特別活動、工業科、業務改善、ICTの活性化については十分な成果があったと評価できる。また、チャレンジ目標の一つである「進路実現100%」は達成できた。

【課題】

生徒指導 頭髪、服装指導で再指導を要する生徒が25%程度いた。
進路指導 3月末までに進路先が決定しなかった生徒がいた。
地域連携 本校の行事等を地域に発信して地域に対する教育活動の周知が足りなかった。
チャレンジ目標の「全校生徒で年間98%以上の出席率」が達成できなかった。

7 次年度への改善策

学習指導、特別活動、工業科、業務改善、ICTの活性化については、本年度の取組をベースにしてより良い方向に改善していきたいと考える。
生徒指導 新入生への校則の周知、見守りによる早期発見・早期指導を徹底する。また、時代に合わせてルールを再検討していく。
進路指導 進路先が未定な生徒に対して、主体性を大切にしながら保護者との連携を強化しながら積極的な働きかけを行っていく。
地域連携 コロナ禍はまだまだ続くように思われる。熟議等を開催して、新たな地域連携活動を創出する。
チャレンジ目標「全校生徒で年間98%以上の出席率」の達成に向けて、全教員で連携、協力しながら生徒の意識改革を図っていく。